



プレスリリース

2015年1月22日

プロロジス、ロサンゼルスで 4.2メガワットの太陽光発電システムを導入

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(NYSE: PLD)は、このたび、米国ロサンゼルスにおいて、あらたに太陽光発電システムを導入したことを発表しました。

太陽光発電システムを設置したのは、合計約 102,000 平方メートルにおよぶ運営中の物流施設の屋根面です。発電量は合計約 4.2 メガワットの予定であり、ロサンゼルス地域 1,100 世帯の消費電力を毎年まかなえる電力に相当します。発電した電力は FIT 制度を利用して Los Angeles Department of Water and Power (LADWP)に供給します。プロロジスは現時点で、LADWP にとって、FIT 制度を利用した最大の電力供給者です。

太陽光発電システムの開発・設置はプロロジスが行い、D.E. Shaw Renewable Investments, L.L.C., の関連会社と Bright Plain Renewable Energy 社との合併会社に売却しました。

プロロジスは全世界で Corporate Responsibility(企業としての責任)を理念とし、「環境への取り組み」「企業の社会的責任」「企業倫理とガバナンス」を3本の柱として企業活動を行っています。「環境への取り組み」においては、2007年以來、再生エネルギーの積極的活用を推進しており、太陽光発電システムの導入実績は現時点で6カ国、2,300,000平方メートル合計110メガワット以上におよびます。

日本国内では、2009年に「プロロジスパーク座間1」の屋根面に、国内の物流施設としては当時最大規模の1メガワットを導入し、現在、全国で合計18.8メガワットが稼働中です。

※本資料は、2015年1月21日(現地時間)に米国で発表された英文プレスリリースの抄訳です。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム
https://f.msgs.jp/webapp/form/11859_dor_73/index.do